

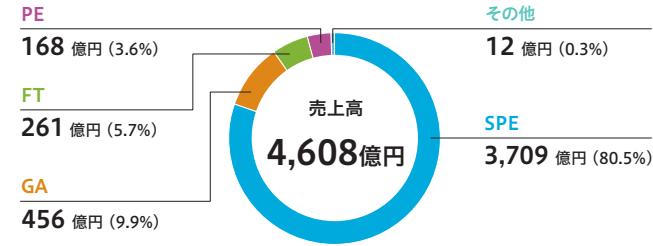
SCREEN

SCREEN NOW vol.113

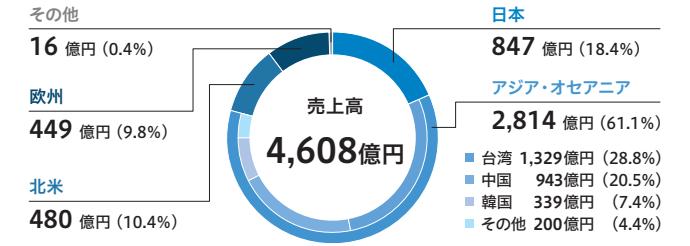
株主通信 2023年3月期

3つのコア技術を展開し 新しいソリューションを創造

セグメント別売上高 (2023年3月期)



地域別売上高 (2023年3月期)



※構成比は小数点第2位以下を四捨五入しており、各項目の比率を加算しても100%になりません。

FT ディスプレー製造装置 および成膜装置事業

コーターデベロッパ「SKシリーズ」
レジスト(感光液)をガラス基板上に
均一に塗布し、現像する装置



SPE 半導体製造 装置事業

枚葉式洗浄装置「SUシリーズ」
独自の洗浄処理技術により、
半導体デバイスの微細化・複雑化に伴う
さまざまな課題に対応、
さらに高い生産性と安定稼働を実現する
半導体ウエハーの枚葉式洗浄装置



ロール式高速インクジェット印刷機
「Truepress Jet520HD シリーズ」
情報・商業印刷向け
高速インクジェット印刷機

GA グラフィックアーツ 機器事業



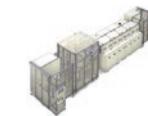
直接描画技術
リソグラフィーや
インクジェットなどを用いて、
ダイレクトにパターンや
絵柄を形成する技術

画像処理技術
画像データの修整、照合、
変換などの
処理を行う技術



新規事業 エネルギー分野

ロールtoロール塗工乾燥装置「RT-Rシリーズ」
二次電池用電極材料などを
ロールtoロール方式で
塗工乾燥する装置



PE プリント基板 関連機器事業

直接描画装置「Ledia シリーズ」
CAD データを使用して
フォトリソに直接描画する装置



重ね合わせ

認識・検出・分類



新規事業 ライフサイエンス分野

画像処理技術を応用した高速細胞スキャナー、
直接描画装置や画像処理技術を用いたインクジェット式
錠剤印刷機などを開発



細胞形態解析
イメージングシステム
「Cell3iMager NX」



インクジェット式
錠剤印刷機
「OMNITO+」





私たちは「人と技術をつなぎ、 未来をひらく」ために、 存在していきたいと考えています。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

半導体業界が調整局面を迎えるなか、当社は2023年3月期、前期に続いて売上高、営業利益、経常利益、当期純利益のいずれも過去最高を更新しました。この3月には株式会社日本格付研究所より、長期発行体格付を当社としては初の「A」格、見通しは「安定的」に格上げいただき、新たなステージに立ったと捉えております。

当社は今期、創業155年、設立80周年の節目の年にあたります。これを機にさらなる成長に向けてグループの企業理念を整備し、当社の存在意義を「人と技術をつなぎ、未来をひらく」と決めました。ここには、世代を越えたさまざまなステークホルダーの皆さまとの繋がりや、そこから生み出してきた技術を継げることで社会課題を解決できる存在になりたいとの思いを込めています。私たちは、世界に冠たるソリューションクリエイターになるべく、この存在意義をよりどころとし、役員、社員一同、まい進いたします。

今期はまた、中期経営計画「Value Up 2023」の最終年度でもあります。収益性および効率性を重視しつつ成長投資を積極的に行いながら、3年連続の過去最高業績を目指す所存です。株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役 取締役社長
最高経営責任者 (CEO)

廣江 敏朗

Q1 事業環境をどのように見ている？

SPEでは最先端の投資だけでなく、中国において成熟ノード※向けの投資が増加しており、2024年3月期も継続する見込みです。GAでは世界各地におけるPOD需要の高まりから、安定的な推移を見込んでいます。一方FTでは、ディスプレイ市場の不透明な環境が続いているため、エネルギー関連事業をHDに移管し、ディスプレイ事業に集中、市場の回復に向けた新製品の拡販に注力していきます。

※成熟ノードとは、20nm以上の古い製造プロセスを意味し、車載半導体をはじめ、LCDドライバーやパワーマネジメントコントローラーなどのチップを低コストで生産するのに使われている。

Q2 2024年3月期の業績見通しは？

中期経営計画「Value Up 2023」(以下、中計)の最終年度となる2024年3月期は売上高、営業利益ともに3期連続での過去最高更新を予想しています。目標値を達成すべく全力で取り組んでいきます。

主力のSPEでは市場の調整局面を迎えるも、先端への開発投資やパワー半導体など成熟ノードへの投資が底堅く推移すると見込んでおり、新工場S³-4も予定通り1月から稼働を始めています。下期からはフル稼働が可能になり、2024年1月から稼働予定のS³-5と合わせ、さらなる需要増に応えられると見込んでいます。

2024年3月期の連結業績予想 (単位:億円)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
4,950	850	820	580

Q3 配当の方針・実績は？

中計の「連結総還元性向30%以上」の方針に沿って、ご支援くださっている株主の皆さまへの還元を目指しています。2023年3月期の親会社株主に帰属する当期純利益の増加を踏まえ、期末配当は過去最高の365円としました。

2024年3月期は、好調な業績見通しを踏まえ、さらなる増配を予想しています。また、投資単位当たりの金額を引き下げ、個人投資家の皆さまが投資しやすい環境を整えるため、2023年9月30日を基準日として、当社普通株式1株につき2株の割合で、株式分割を行います。加えて、株主の皆さまへの利益還元機会を充実させるため、中間配当制度を導入しました。(第82回定時株主総会にて決議)

配当金実績および配当予想 (単位:円)

2023年3月期		
1株当たり 期末配当	365	
2024年3月期(予想)		
		株式分割前換算
1株当たり中間配当	140(分割前)	140
1株当たり期末配当	114(分割後)	228
合計	単純合計 できないため非表示	368

詳細につきましては、下記ウェブサイト「株主・投資家情報」で説明しています。
<https://www.screen.co.jp/ir/dividend>

* 詳細情報は、中期経営計画についてはP5-6、新工場S³-4およびS³-5についてはP7-8をご参照ください。

中期経営計画“Value Up 2023” 目標を達成し、新たな成長ステージへ

2020年7月に策定した中期経営計画“Value Up 2023”。

好調な業績と堅調に推移する市場環境を考慮し、2022年7月には目標を上方修正しました。

2023年3月期は前期に引き続き、売上高、利益ともに過去最高を達成。

計画の最終年度となる2024年3月期もさらなる成長を目指し、

すべての目標値を達成すべく、全力で取り組んでいきます。

Value Up 2023

1.イノベーションの創出と持続的成長 サイクルによる企業価値向上

- 戦略的な開発投資を軸に、オープンイノベーション推進やM&Aの活用により、事業ポートフォリオを強化
- 新規事業の創出へチャレンジ継続(エネルギー、ライフサイエンス、AI)

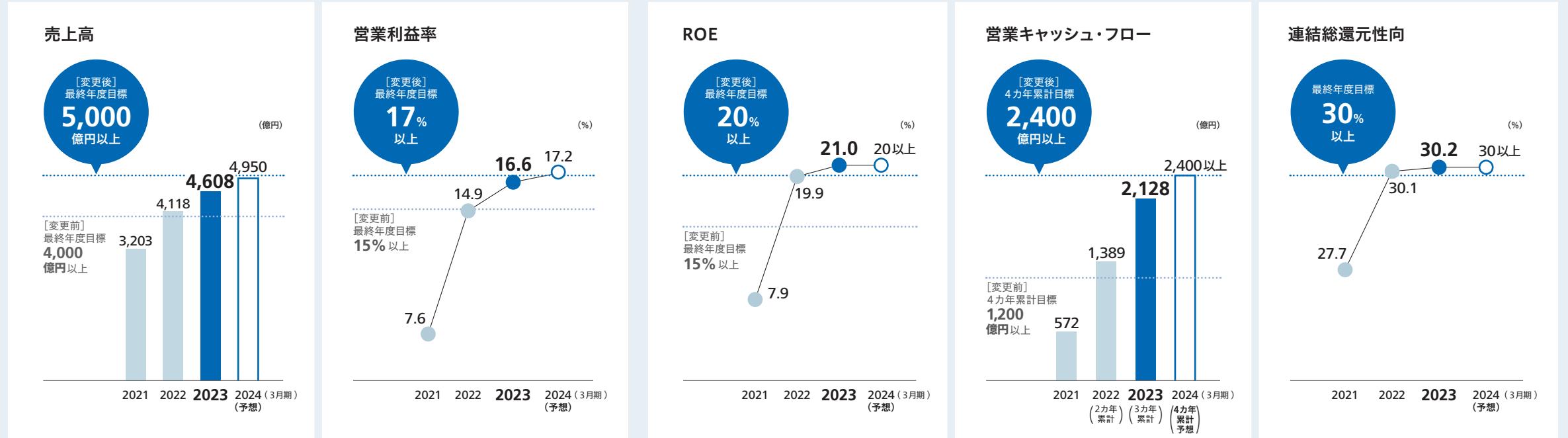
2.収益性と効率性を追求し、 利益に見合うキャッシュを創出

- ROIC指標導入を通して、各事業における資本効率を向上
- 営業キャッシュ・フローの安定的な創出により、成長分野への投資を強化

3.サステナブル企業に向けた ESGへの取り組み

社会の持続可能な発展に貢献するSustainable Value(社会的価値)向上の指針に基づき、中期計画“Sustainable Value 2023”を策定し実施

経済的価値の目標達成状況と今期予想



概況と主な取り組み

HD ホールディングス(新規事業含む)

- ROIC経営の浸透により、収益性、効率性の追求(継続)
- FTの水素関連事業をHDに移管、インキュベーション化(2024年3月期より)

SPE 半導体製造装置事業

- 半導体市場の調整局面においても、増収増益を見込む(当期は前期に続き、過去最高業績)
- 微細化に伴う洗浄ニーズが高まる最先端ノードから、成熟ノードまで、多様なソリューションを提供
- 新工場「S³-4」が完成、さらなる生産効率改善を目指して「S³-5」に着工、旺盛な需要に着実に対応

GA グラフィックアーツ機器事業

- 北米中心にPOD(インクジェット印刷機)の販売が引き続き好調
- リカーリングビジネスは安定的に推移

FT ディスプレー製造装置および成膜装置事業

- ディスプレー市場の落ち込みにより業績は低迷するも、今後のOLED(有機EL)向け投資の拡大を見据え、新製品開発に注力

PE プリント基板関連機器事業

- 直接描画装置の売上が好調(当期は過去最高業績)
- 足元では、半導体市場の調整局面の影響を受けるも、回復時期を見据え、積極的な開発投資を継続

* 上記5項目の数値目標はオーガニック・グロースを前提

新しい価値を提供するソリューションクリエイターとして、持続可能な社会を実現します。

半導体製造装置の生産・サービス体制を強化

2022年1月より進めていた半導体製造装置の新工場「S³-4 (エス・キューブフォー)」の建設を終え、2023年1月に操業を開始しました。さらに、長期的な成長が続く半導体製造装置市場の需要拡大に対応する盤石な生産・サービス体制を構築するため、「S³-4」に続く新工場として「S³-5 (エス・キューブファイブ)」の建設、ならびに国内グループ会社3社への能力増強投資を進めています。

今回の設備投資の中核となる新工場「S³-5」は、洗浄装置の生産能力増強に向け、部品仕分け機能や装置・ユニットの組み立て機能を強化。主力工場である「S³-3」や「S³-4」と連結することで、

生産開始から出荷まで従来に増して効率的な生産フローを実現します。

また、富山ではユニット組み立てから出荷までの一貫生産を可能にし、グループ全体の生産能力向上・効率化を図るほか、保守・サービス体制強化の一環として、熊本に新たなサービス拠点となる新棟を建設。洗浄装置の部品加工強化のため、福島で能力増強を行うなど、サプライチェーン全体の強化を目指します。

当社はこれからも、半導体製造装置のシェア拡大を目指すとともに、収益性・効率性向上と競争力強化を図っていきます。



2024年1月操業開始予定
S³-5 (エス・キューブファイブ)
総工費：約80億円

国内グループ3社の設備投資概要

株式会社SCREEN SPE サービス
熊本エリアでの保守サービス拡大に伴う新棟建設
総工費：約5億円
竣工：2022年12月

株式会社SCREEN SPE ワークス
拡張整備(富山)
総工費：約55億円
竣工：2023年7月予定

株式会社SCREEN SPE クォーツ
拡張整備(郡山)
総工費：約15億円
竣工：2023年9月予定
拡張整備(いわき)
総工費：約5億円
竣工：2023年10月予定



2023年1月 操業開始
S³-4
総工費：約100億円

企業理念の整備

近年、社会はさまざまな課題に直面しています。こうした社会課題に対し、企業としてイノベーションを起こし、解決に向けたソリューションを創出して、当社がさらなる成長を図るには、私たちは何のために存在するのか、企業としての存在意義に立ち返り、社内外の誰もが共感し、共に歩んでいける共通の考え方が必要です。そこで、新たに存在意義を基軸とした企業理念に整備しました。

企業理念	存在意義	人と技術をつなぎ、未来をひらく
	未来共有	未来を見つめ社会の期待に誠実にこたえる
	人間形成	働く喜びを通じて人をつくる
	技術追求	独自技術の追求と融合をすすめる
創業の精神	思考展開	創造と発展に挑み続ける精神

JCR 信用格付、2期連続で向上

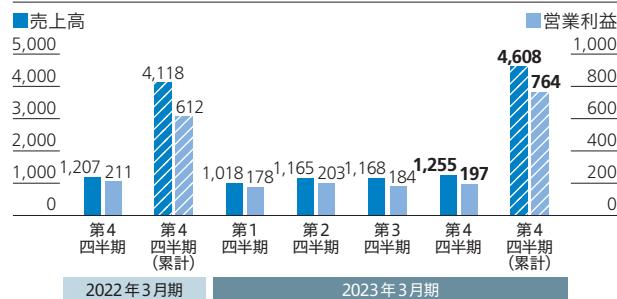
好調な業績の維持と収益性の改善、キャッシュ・フロー創出力の高まりが評価され、JCR(株式会社日本格付研究所)の信用格付(長期発行体格付)が、従来のA-(見通し:ポジティブ)からA(見通し:安定的)に引き上げとなりました。(2023年3月17日公表)



Highlight
連結決算ハイライト

(注) 財務数値につきましては、金額は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表示しています。

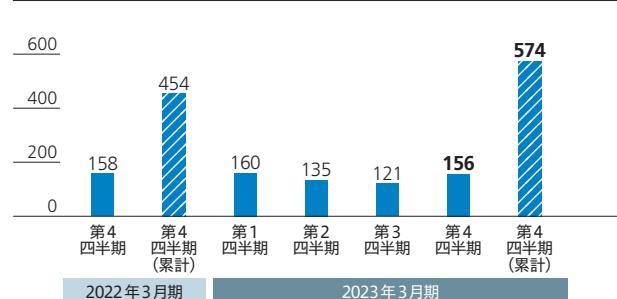
売上高・営業利益 (億円)



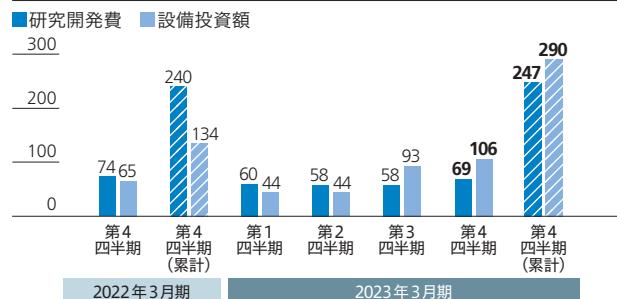
経常利益 (億円)



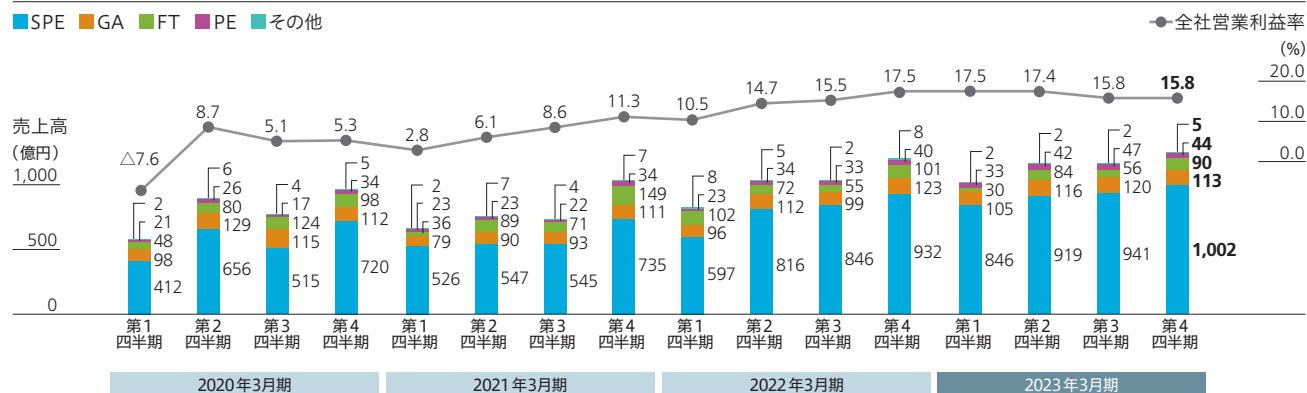
親会社株主に帰属する四半期純利益 (億円)



研究開発費・設備投資額 (億円)



セグメント別売上高・全社営業利益率



Segment
セグメント別業績

SPE 半導体製造装置事業

売上高 **3,709** 億円 (前期比 16.1% 増)
営業利益 **769** 億円 (前期比 22.5% 増)

- 売上高、営業利益ともに過去最高
- ファウンドリー、ロジック向けが牽引し、増収増益
- 台湾、欧州向け売上が増加



GA グラフィックアーツ機器事業

売上高 **456** 億円 (前期比 5.3% 増)
営業利益 **33** 億円 (前期比 107.6% 増)



FT ディスプレー製造装置および成膜装置事業

売上高 **261** 億円 (前期比 21.3% 減)
営業利益 **△18** 億円 (前期は5億円の営業利益)

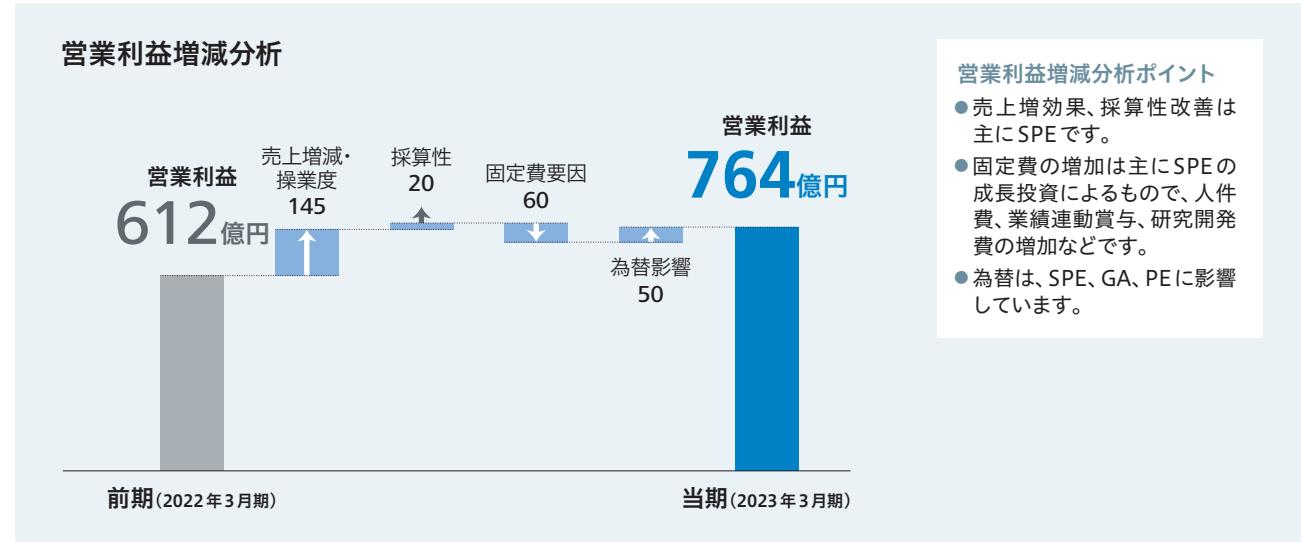
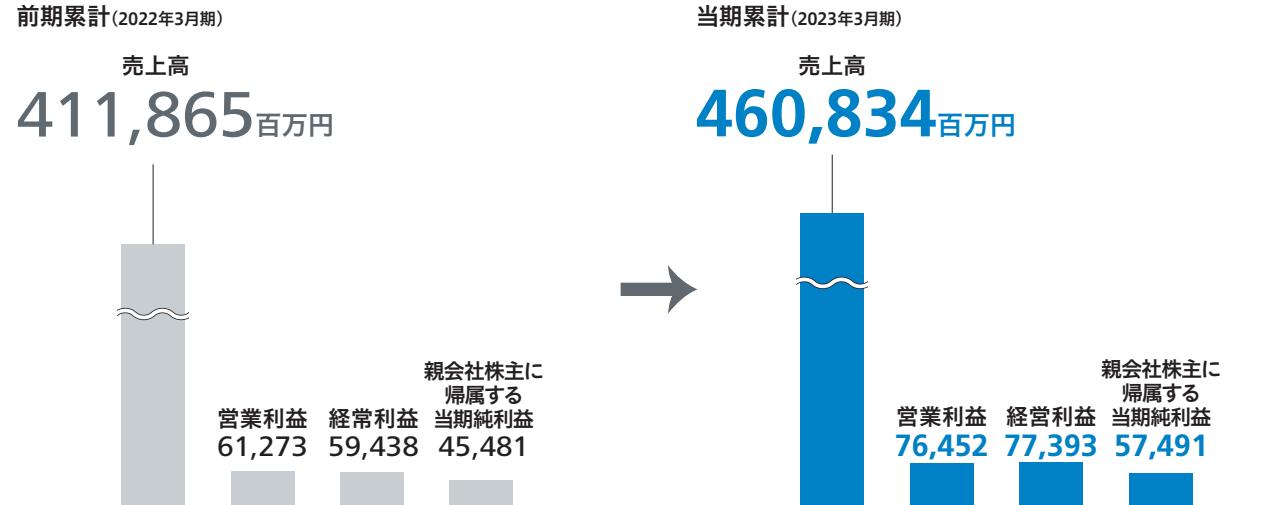


PE プリント基板関連機器事業

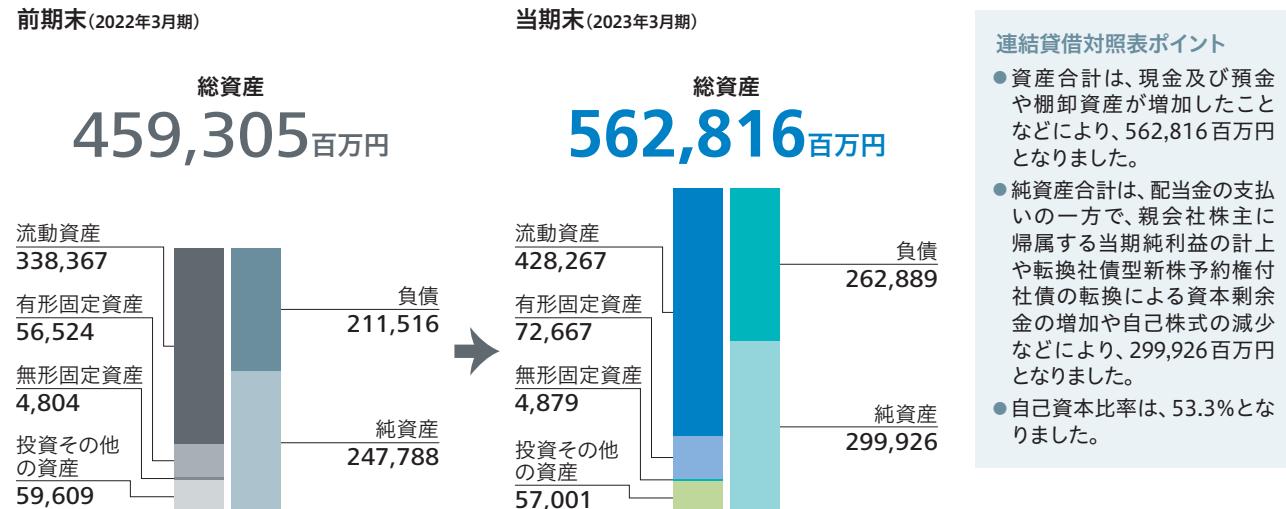
売上高 **168** 億円 (前期比 26.5% 増)
営業利益 **33** 億円 (前期比 61.9% 増)



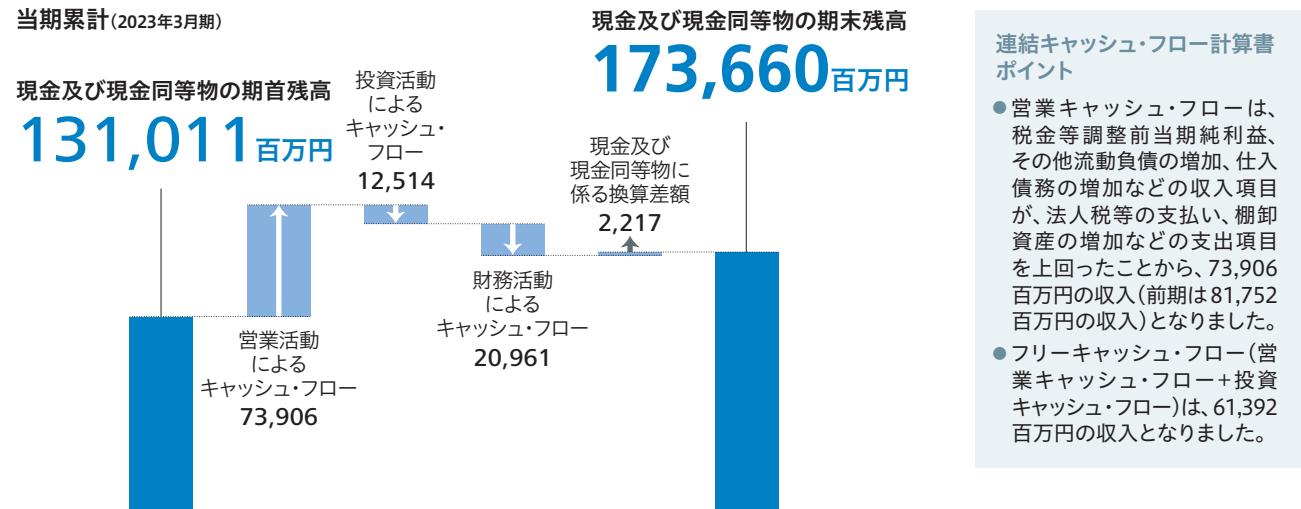
連結損益計算書



連結貸借対照表



連結キャッシュ・フロー計算書



- HD ホールディングス(新規事業含む)
- SPE 半導体製造装置事業
- GA グラフィックアーツ機器事業
- FT ディスプレー製造装置および成膜装置事業
- PE プリント基板関連機器事業

2022年

5月

UVインクジェットラベルプリンティングシステムが
出荷台数200台を達成

印刷品質と安定性に定評がある「Truepress Jet L350UVシリーズ」(2014年発売)の記念すべき200台目が、ラベル印刷ビジネスを拡大するHickman Label社(米)に導入。今後も、高速かつ高品質な印刷技術と課題解決ソリューションの開発により、新たな印刷マーケットを開拓します。



11月

米国・IBM社と、
次世代洗浄プロセスの
共同開発契約を締結

洗浄工程の課題をいち早く取り入れ、数年先の市場のニーズを見据えた洗浄プロセスや量産装置の開発を加速させていきます。

12月

世界最高レベルの生産性と
高い処理性能を実現する
枚葉式洗浄装置「SU-3400」を発売

半導体のさらなる微細化・高集積化に伴い、ウエハーの高い清浄度が求められる一方で、製造工程における環境負荷低減が課題となっています。「SU-3400」では、装置面積当たりの生産量を大幅に向上させながら、装置使用時の、環境負荷20%低減(従来製品比)も実現しました。



3月

大サイズ対応高精細
モデル直接描画装置
「Ledia 7F-L」を発売

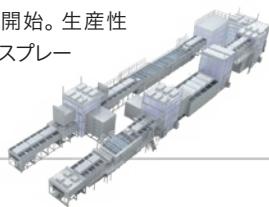
IoT、DXの進展に伴い、電子機器に搭載されるプリント基板の需要が急速に拡大し、大サイズ基板においても従来以上の微細化が求められるなか、「Lediaシリーズ」の最新機種を4月に発売。さまざまな市場要求に応える汎用性の高さが特長です。



10月

第8世代基板に対応した有機EL
ディスプレイ製造装置を発売

IT機器用や車載用の有機ELディスプレイの需要拡大により、1枚のガラス基板からより多くのパネルを製造できる大型ディスプレイ対応装置へのニーズの高まりを受け、「SK-E2200G」「SK-E2200H」の2機種を開発・販売開始。生産性向上と省スペース化により、有機ELディスプレイの安定供給に大きく貢献します。



12月

ベルギー・imecと
共同開発契約を締結

SPEの専門的知見と、imecが有する先端半導体技術との相乗効果によって、サステナブルな社会の実現に向けた技術開発を推進します。

2023年

2月

「Clarivate Top 100 グローバル・
イノベーター 2023」を昨年に続き受賞

特許データの分析から見る世界の革新的な企業・機関トップ100に2年連続で選出されました。今後も、社会課題を解決する研究開発とそれを支える知的財産活動をさらに強化し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



3月

直接描画装置「LeVina」のラインアップを拡充

高精細な描画性と高生産性を両立できる直接描画装置へのニーズが高まるなか、世界最高水準となる解像度2μm対応モデルを開発、7月に販売を開始します。従来モデルへの入れ替えも可能とし、用途に応じたフレキシブルな生産ラインの構築に寄与します。



2022年

7月 「アジア太平洋地域気候変動リーダー企業200社」に選出

7月 半導体洗浄時におけるナノ構造物の倒壊メカニズムを解明。倒壊挙動の解明により半導体製造プロセスの課題を解決し、半導体のさらなる微細化・高集積化に寄与

8月 広島大学とSCREEN、腎臓移植用医療機器「オーガンケット」の臨床試験を終了。より確実な腎臓移植をサポートする医療機器としてSCREENが製造・販売へ

8月 半導体製造装置業界初、CO₂排出量算定・可視化クラウドサービス「zeroboard」(長瀬産業(株)が販売・展開)を導入。製品・サービス別のCO₂排出量の可視化を推進し、脱炭素社会の実現に貢献

9月 台湾・AUO社から、ディスプレイ製造装置における品質・サービス対応などが評価され、「Excellent Equipment Partners Award」を受賞

10月 業界団体SEMI「半導体気候関連コンソーシアム(Semiconductor Climate Consortium)」へ創設メンバーの一員として参画

11月 長崎大学とSCREEN、臓器灌流システムの臨床導入を目指した共同研究講座を開設

11月 高解像度と高生産性を両立したパターン付きウエハー外観検査装置「ZI-3600」を発売。次世代パワーデバイスの安定生産に貢献

12月 フレキシブルディスプレイ用基板製造に対応した塗布乾燥装置の新製品「SK-P1501G」「SK-P2200G」を発売。大型ディスプレイ量産時の生産性向上に寄与

2023年

3月 「健康経営優良法人2023 ～ホワイト500～」に認定

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 ※ 2023年6月23日開催の第82回定時株主総会の決議で、中間配当制度を導入いたしました。

単元株式数	100株
公告方法	電子公告により、当社ウェブサイトに掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪府中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)
電話：0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店でっております。

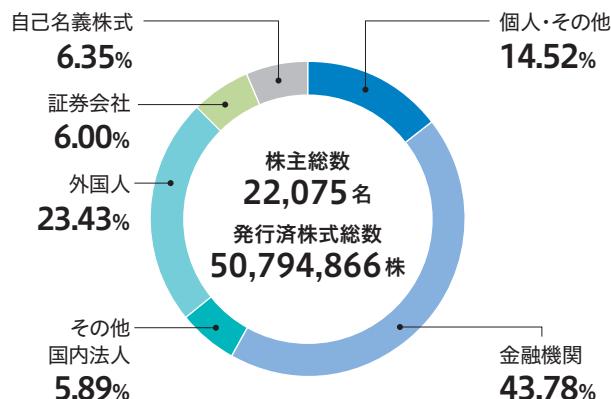
1. 「特別口座」に記録された株式をお持ちの株主さま

株券電子化までに証券保管振替機構(ほふり)に株券を預託されなかった株主さまの株式は、当社が三井住友信託銀行に開設しました「特別口座」に記録されています。特別口座では、株式の売買が制限されておりご不便かと存じますので、証券会社に開設されました一般口座へ振替されることをお勧めいたします。お手続きの詳細は上記の三井住友信託銀行にお問い合わせください。

2. 単元未満株式をお持ちの株主さま

当社に対して、次の請求を行うことができます。
【買増請求】 単元株式(100株)に不足する株式の買増し
【買取請求】 単元未満株式の買取り
お手続きの詳細は、お取引の証券会社(特別口座が開設されました株主さまは、三井住友信託銀行)にお問い合わせください。

所有者別持株比率 (2023年3月31日現在)



株主・投資家さま向けウェブサイトのご案内

決算を中心とする財務情報、株主総会、経営方針、株価、配当などの情報や、当社グループの歩み、アニュアルレポート、株主通信ほかの各種資料を掲載しています。

www.screen.co.jp/ir

SCREEN 投資家

検索



本誌にて提供する業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。

株式会社 SCREENホールディングス

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る四丁目天神北町1番地の1 電話：075-414-7233

www.screen.co.jp

SCREEN NOW vol.113 発行日：2023年6月23日(発行は毎年6月) 発行責任：広報・IR室 IR部

本誌では、当社製品(フォント)「ヒラギノ書体」「ヒラギノユニバーサルデザイン書体」を使用しています。

UD FONT
by HIRAGINO



証券コード：7735

IR-SN-113